

200924031B

厚生労働科学研究費補助金

第3次対がん総合戦略研究事業

がん生存者(Cancer survivor)の QOL 向上に有効な医療資源の構築研究

平成 19 年度～21 年度 総合研究報告書

研究代表者 山口 建

平成 21(2010)年 3 月

目 次

I.	総合研究報告	
	がん生存(Cancer survivor)のQOL向上に有効な医療資源の構築研究	1
	山口 建	
II.	研究成果の刊行に関する一覧表	
	雑誌：外国語	9
	雑誌：日本語	9
	書籍：日本語	10

総合研究報告書

研究課題名 がん生存者 (Cancer survivor) のQOL向上に有効な医療資源の構築研究

研究代表者 山口 建 静岡県立静岡がんセンター 総長

研究要旨

本研究では、「がんの社会学」の視点に立ち、がん患者・家族の悩みや負担を明らかにしながら、その軽減に役立つツールやシステムの開発に努めている。その一環として、がん患者・家族に役立つ医療資源を、①がん診療、②在宅医療・医療連携、③医療福祉サービスに大別し、それぞれの窓口へのアプローチ法を明確にし、患者・家族を含む地域の関係者に情報提供し、がん患者、家族の身体と心のQOL向上に役立てることを目的として研究を進めている。

このうち、③については、静岡県での公開後の検証作業や改善を行うとともに、全国的な波及を目指し三重県等での調査を行った。一方、①診療に関わるもの、②在宅医療などケアにつながる医療資源については平成19年度より調査を開始し、平成20年度にかけて、病院・診療所については約30項目、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーションについては約20項目、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、ケア用品取扱店については、位置情報等数項目の調査項目をそれぞれ確定した。さらに、沼津医師会の在宅医療連携情報を調査し追加した。

平成21年度は、地域の医療資源をつなぐ情報ツールとして「地域がん医療資源検索システム（仮称）」を完成させた。上記の地域医療資源の活動情報を含み、電子地図上でその所在地を示すシステムである。登録した各医療資源件数は6,637件に上り、がん診療、在宅医療・医療連携、医療福祉サービスに関わる医療資源情報を総合的に発信する仕組みとして、がん患者・家族、医療関係者等が地域で利用可能な医療・社会システムの全体像を把握し、必要な情報を入手できる基盤が整備された。

研究分担者

山口 建	静岡県立静岡がんセンター 総長
山下 浩介	医療法人社団北斗 北斗病院 部長
小林 国彦	埼玉医科大学 国際医療センター 教授
北村 周子	(財)三重県健康管理事業センター 三重県がん相談支援センター センター長
堀内 智子	静岡県立静岡がんセンター 疾病管理センター長
北村 有子	静岡県立静岡がんセンター研究所 主任研究員
吉田 美昌*1	(財)三重県健康管理事業センター 診療所長

*1 平成19年度4月1日～平成21年3月31日

A. 研究目的

本研究は、「がんの社会学」の視点に立ち、がん患者・家族の悩みや負担を明らかにしながら、その軽減に役立つツールやシステムを開発することを目的とし、特に、患者参加型医療が進むがん医療において、「患者、家族の視点を重視した医療サービスとは何か」という命題にアプローチしている。そのためには、患者・家族・生存者の視点に立ち、診療、在宅療養・医療連携、生活支援に役立つ医療資源を調査し、わかりやすい形で社会に提供することが必要となる。

具体的には、がん患者とその家族等を対象に、がん診療の様々な時期で必要となる地域医療資源情報を内容や必要となる時期に応じて整理し、その窓口を明確にし、患者や家族等に対して一元的に提供するためのデータベースを含め、インターネットを活用して患者、家族、医療関係者に情報を提供する“地域がん医療資源検索システム（仮称）”（以下、「システム」という）の構築を目指した。

本研究では、地域医療資源を、①診療に関わるもの、②在宅医療などケアにつながるもの、③医療福祉サービスなど福祉に関わるものに分け、それぞれについての情報提供を行った。

B. 研究方法

1) 医療福祉サービス調査結果の活用

静岡県内42市町(当時)の医療福祉サービスについての調査結果を、県や市町へ提供し評価を得た。また市町のワンストップ窓口の設置について検討した。さらにWeb上での情報提供の活用状況を把握し、情報提供の改善を目指した。

2) 医療福祉サービスに関する地域医療資源調査の全国への波及

本研究で確立された調査方法を用い、三重県の全ての市町で、医療福祉サービスに関する地域医療資源調査を進めた。加えて、過疎地域として、北海道の一地域における医療資源調査についても検討を進めた。

3) スピチュアリティ質問票の作成

療養中のがん患者の心のQOLを評価する質問票の作成について、European Organization for Research and Treatment of Cancer (EORTC)が開発したSpiritual well-beingを問うEORTC QLQ-SWB-38の日本語版の作成を進めた。

4) システムの調査

システム開発にあたり、患者の退院に関わる医師、看護師等の主な医療関係者からヒアリング調査を行い、システムの機能等について精査を行った。

5) システムの構築

病院・診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所等の地域医療資源について、調査項目の検討・確定を行った。さらに既存サイトを活用する調査項目については、静岡県等との調整を行い、了承を得てデータ収集を行った。さらに医療関係者専用情報として、地元の沼津医師会在宅支援ネット情報などの在宅医療連携情報を調査し追加した。

以上の調査結果等を基に、Web上で閲覧できるシステムの開発を行った。

(倫理面への配慮)

本研究においては、患者あるいは一般市民は研究対象に該当せず、本研究によって危険性を生じる状況は存在しない。

C. 研究結果

1) 医療福祉サービス調査結果の活用

調査結果は、すべての市町にフィードバックし、Web上で他の市町と比較検討することを可能とした。さらに、静岡県には、全市町の医療資源情報を提供し、全県的な状況把握と今後の施策展開に役立てた。これらの情報は、静岡県がん対策推進計画の策定のために重要な役割を果たした。

がん診療連携拠点病院にも、すべての市町の医療資源整備状況を提供し、相談支援センターやソ

ーシャルワーカーの相談対応に役立て、全県の一般医療機関、保健所等についても、関連市町の医療サービスリストを提供し、状況把握と日々の診療に役立てた。

さらに、一般の住民に対しても、市町、関係者の意向を踏まえた上で、必要な情報提供に努めた。

市町のワンストップ相談窓口については、静岡県内の2つの市と町でワンストップ窓口が開設され、一般的な相談に応じている。

Web上での情報提供については、アクセス数の向上など改善を行うとともに、更新を容易にできるシステムを付加し、市町との協働による情報発信体制が確立された。

2) 医療福祉サービスに関する地域医療資源調査の全国への波及

三重県においては、県内すべての29市町について、アンケート調査票とヒアリング調査とを合わせた静岡方式により、財団法人三重県健康管理事業センターが調査を進め、三重県健康福祉部医療政策室、静岡がんセンターが調査を支援した。必要に応じて、三重県内がん診療連携拠点病院、医師会、患者会・支援団体などの協力も仰いだ。この結果、すべての市町で実施されている医療福祉サービスの窓口がリスト化され、情報提供が可能となった。

3) スピチュアリティ質問票の作成

Relationships, Existential, および、Religious beliefs and practiceの3つから構成される概念であるSpiritual well-beingが日本語としては、「心と魂の健全さ」と訳されるなど、欧米でのコンセプトとのすりあわせが重要であると認識された。

4) システムの調査

訪問看護ステーション関係者、薬局関係者および沼津医師会関係者からヒアリング調査を行った。その結果、システム構築に対する期待の声が多く寄せられ、期待の高さがうかがえたとともに再検討すべき調査項目、情報発信するにあたっての注意点、今後検討していくべき機能等の課題も明らかになった。その中で、今回のシステム構築に反映できるものについて対応した。

5) システムの構築

調査項目について検討し、病院34項目・診療所32項目、歯科診療所27項目、薬局16項目、訪問看護ステーション15項目、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、ケア用品取扱店については住所、連絡先等の基礎的な数項目を確定した。その上で静岡県等の了承を得てデータ収集を行い、システムの開発を行った。

システムは、患者の住所を入力することによって、近距離にある病院、診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、ケア用品取扱店の8資源

を地図情報とともに提示する。提示する資源の種類は選択できる。

さらに病院、診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーションの5資源については、調査で確定したがん患者に有用な詳細項目について更なる情報を提示している。

最初の操作で必要な情報が得られない場合は地図を移動させたり縮尺を変えたりすることで直感的、効率的に再探索が可能となっている。また、地図と連動してWeb版がんよろず相談Q&Aの静岡県内の各市町が提供する生活支援サービスの窓口リスト情報が得られる。

さらに、医療者専用画面を設け、医療関係者がより詳細な地域の在宅医療情報を入手できる環境を整えた。現時点では沼津医師会在宅支援ネットの連携マップや連携カードおよび対応可能な医療処置管理内容一覧を掲載している。なお、これらの情報をネット上で随時更新できる仕組みを導入した。

D. 考察

1) 医療福祉サービス調査結果の活用

医療福祉サービスの担い手は市町村である。今回の調査結果をもとに、市町担当部局では適切な活動が可能となった。

静岡県内42市町(当時)についての調査結果は、がん対策基本法に基づくがん対策推進計画の策定に役立てられ、市や町においては、自身が実施している医療福祉サービスを把握することで、がん患者や家族の社会生活上のQOLの改善に活用されるなど効果が確認された。

静岡県や三重県においては、行政が実施する医療福祉サービスに加え、地域の医療資源情報が一元化されれば、それに基づき、地域における多職種チーム医療の構築が可能となる。

また、患者・家族にとっては、各種の医療資源の概要を把握することができ、必要な資源へのアプローチが容易となる。

一方、医療従事者にとっては、患者・家族支援に資する各種資源について、具体的な詳細情報の提供が可能となる。とくに、がん相談支援センターのスタッフにとっては、従来、情報収集に時間をかけていたものが、患者・家族への情報提供が容易になり、多くの時間を患者・家族との対話に振り分けることが可能となる。

2) 医療福祉サービスに関する地域医療資源調査の全国への波及

三重県での調査が実施されたことで、静岡県をモデルとして開発された行政による医療福祉サービスの窓口調査方法が実用に耐えうるものであることが明らかにされた。今後、全国各地でこの調査方法を取り入れ、地域の医療福祉サービス

の窓口を明らかにしていくことによって、がん患者と家族の生活の支援が可能となる。

3) スピチュアリティ質問票の作成

療養中の患者の心のケアについては試行錯誤が続いている。担当医や看護師、精神科医、臨床心理士など、ケアの手法は決して統一されていない。手法はともあれ、患者の心や魂の健全さを計る指標を確立することはこの問題についての一つのアプローチ法となる。その意味で、このような質問票には大きな意義がある。

4) システムの調査

訪問看護ステーション関係者、薬局関係者および沼津医師会関係者からのヒアリング調査結果を受けて、いくつかシステムの改善を行ったことにより、利便性が増し機能が充実した。

一方で、他のサイトの情報を活用していることによる更新や情報内容の制限等システムの限界もある。そのため、機能の充実というハード面の改善と併せて、“地域における多職種チーム医療”の実践に有効な活用の仕方というソフト面の検討が今後の課題である。

5) システムの構築

システムは、医療法に基づいて公開されている医療機能情報や薬事法に基づいて公開されている薬局機能情報など既存の公開情報を一元化し、さらにはがん関連項目に絞りこむなど、患者・家族等の利便性を考えた機能的な情報提供を試みている。

さらに医療関係者用画面では、地域における在宅医療連携情報を掲載し、当該診療所の在宅医療に関する医療処置内容の情報提供に加え、医療連携の在りようを地図上で示すことで連携情報の“見える化”を実現した。

患者・家族・生存者は、このサイトによって在宅療養の可能性等を確認出来る。医療従事者にとっては、患者のスムーズな退院調整や患者への情報提供等に活用出来る。薬局等もシステムを活用することによって、地域におけるがん相談窓口として機能する可能性が高まる。地域における相談窓口の増加は、患者・家族・生存者の利便性を高めることにつながる。さらに行政担当者及び一般の方々にとっては、地域のがん医療資源について理解を深める一助になることが期待される。

システムは、従来、このような情報サイトの必要性が認識されながらも、その情報量の膨大さと更新の困難性からなかなか実現してこなかったものである。それを今回、本研究において実現させたが、まだまだ課題や限界もある。今後は、それらの課題や限界をふまえ、地域の多職種チーム医療の実践に役立てていくことが次の課題である。

E. 結論

本研究では、「がんの社会学」の視点に立ち、がん患者・家族の悩みや負担を明らかにしながら、その軽減に役立つツールやシステムの開発に努めている。その一環として、がん患者・家族に役立つ医療資源を、①がん診療、②在宅医療・医療連携、③医療福祉サービスに大別し、それぞれの窓口へのアプローチ法を明確にし、患者・家族を含む地域の関係者に情報提供し、がん患者、家族、生存者の身体と心のQOL向上に役立てることを目的として研究を進めてきた。

このうち、③の医療福祉サービスについては調査結果の公開後、その調査結果が様々な形で活用されていることを確認した。さらに、同様な調査が静岡以外の地域でも実施され、本研究で確立した手法が有効であることが明らかになった。また、Web上での情報提供については、アクセス数の向上など改善を行うとともに、更新を容易にできるシステムを付加し、市町との協働による情報発信体制を確立した。

①②の地域医療資源についての検討では、がん診療連携拠点病院、一般病院、「地域の多職種チーム医療」など地域の医療資源をつなぐ情報ツールとして「地域がん医療資源検索システム（仮称）」を開発した。情報は、病院・診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所等の活動内容を明らかにし、電子地図上で所在地を示すシステムである。さらに医療関係者専用情報として、地元の沼津医師会在宅支援ネット情報などの在宅医療連携情報も搭載した。登録した各医療資源件数は6,637件に上り、がん診療、在宅医療・医療連携、医療福祉サービスに関わる医療資源情報を総合的に発信する仕組みが完成した。

この結果、がん患者・家族等が地域で利用可能な医療・社会システムの全体像を把握し、必要な情報を入手できる基盤が整備された。

F. 健康危険情報

患者、家族は研究対象ではなく、明らかな健康危険情報はない。

G. 研究発表

1. 論文発表

雑誌（外国語）

1. Kobayashi K, Yamaguchi K, et al., Effects of socioeconomic factors and cancer survivors' worries on their quality of life (QOL) in Japan. *Psycho-Oncology*, 17:606-611, 2008.
2. Yamaguchi K, et al. Cancer Patients' Distresses and Inquiries - proposal of Four-level Classification Based on Consultation Service and Questionnaire Survey. *Cancer Sci.* 98:612-616, 2007.

雑誌（日本語）

1. 山口建、高度先進医療・患者視点の重視を両輪に「地域に根差した病院」を実現、がん治療最前線、67:3-7、2010
2. 山口建、多職種チームの医療の実践、*Oncology Network*、2:3、2009
3. 山口建、がん医療現場でのQuality improvementを考えるー患者参加型医療への対応ー、*安全医学*、5:5-11、2009
4. 山口建、堀内智子、がん診療連携拠点病院の現状と課題、*保健医療科学*、57:318-326、2008
5. 山口建、*医学は科学、医療は物語ー理想のがん医療を目指してー*、*臨床血液*、49:215-223、2008
6. 堀内智子、山口建、他、暮らしに役立つ医療福祉サービス、*治療*、90:151-156、2008
7. 影山武司、山口建、堀内智子、他、地域におけるがん検診の実態調査、*治療*、90:75-79、2008
8. 石川陸弓、北村有子、山口建、堀内智子、他、患者・家族のためのがん情報収集法、*治療*、90:145-150、2008
9. 小林国彦、QOL評価の質問表(EORTC QLQ-C30とQLQ-C15 PAL)、*緩和ケア*、18:61-62、2008
10. 小林国彦、緩和ケア用QOL調査表ーケアノート(Care Notebook)、*緩和ケア*、18:69-70、2008
11. 斉藤恵理香、小林国彦、肺癌の緩和医療をめぐって、*呼吸*、27:958-964、2008
12. 山口建、家庭医によるがん対策ー疾病管理と社会学の立場からー、*治療*、90:6-13、2008
13. 山口建、がん診療連携拠点病院とは？、*治療*、90:123-130、2008
14. 影山武司、山口建、他、地域におけるがん検診の実態調査、*治療*、90:75-79、2008
15. 山崎むつみ、山口建、他、家庭医のためのがん情報収集法ーインターネットを中心にー、*治療*、90:137-143、2008

16. 福地智巴、山口建、他、医師と患者・家族のコミュニケーション術、治療、90：157-162、2008

書籍(日本語)

1. 山口建、他（「がんの社会学」に関する合同研究班）、「がんよろず相談Q&A第6集 乳がん編③」、静岡がんセンター編集、2010
2. 山口建、がんの社会学と患者支援、がん看護BOOKS がん看護研修マニュアル、静岡がんセンター編集、南江堂、東京、12-18、2010
3. 山口建、がん対策の総合的戦略—予防・検診・受診・情報—、がん看護BOOKS がん看護研修マニュアル、静岡がんセンター編集、南江堂、東京、41-18、2010
4. 山口建、急増する患者。がんの2015年問題にどう立ち向かうか、がんを生き抜くための指南書、蔭書房、東京、73-86、2010
5. 石川睦弓、北村有子、患者・家族支援、がん看護BOOKS がん看護研修マニュアル、静岡がんセンター編集、南江堂、東京、19-22、2010
6. 山口建、がんよろず相談(相談支援センター)の取り組みと役割、がん医療入門、朝倉書店、東京、218-225、2009
7. 山口建、「がんの社会学」を目指して、医の倫理・シリーズ講演会 よい医師になる、日本医学出版、東京、93-111、2009
8. 山下浩介、がん患者・家族のサポート、北海道、2009
9. 山口建、他（「がんの社会学」に関する合同研究班）、「がんよろず相談Q&A第5集 乳がん編②」、静岡がんセンター編集、2009
10. 山口建、他、がんの社会学—DPC時代の次に何がくるのか? : がん医療の質に挑むDPC時代のチャレンジ、グローバルヘルス研究所(編)、日本医学出版、東京、57-72、2008
11. 山口建、患者視点のがん治療を可能にするために: 日本の医療を変える—「医療崩壊時代」への提言—、和田努(監修)、同友館、東京、225-236、2008
12. 山口建、他、「がんの時代」における家庭医の役割: 地域で支える 患者本位の在宅緩和ケア、片山壽(監修)、篠原出版新社、東京、40-54、2008
13. 山口建、他（「がんの社会学」に関する合同研究班）、緩和ケアとは?(小冊子)、静岡がんセンター編集、2008
14. 山口建、他（「がんの社会学」に関する合同研究班）、がんと上手につきあう方法

- (小冊子)、静岡がんセンター編集、2008
15. 山口建、他（「がんの社会学」に関する合同研究班）、患者・家族のコミュニケーション(小冊子)、静岡がんセンター編集、2008
 16. 山口建、他（「がんの社会学」に関する合同研究班）、痛みをやわらげる方法(小冊子)、静岡がんセンター編集、2008
 17. 山下浩介、がんに負けない!(小冊子)、2009
 18. 山口建、他、がん患者さんと家族のための抗がん剤・放射線治療と食事のくふう、女子栄養大学出版部、2007
 19. 山口建、他（「がんの社会学」に関する合同研究班）、「がんよろず相談Q&A第4集 乳がん編①」、静岡がんセンター編集、2008
 20. 山下浩介、がん患者・家族のケア(小冊子)、2008
 21. 山口建、振り返らずに一歩ずつ—がんの社会学を实践して、日本医事新報、東京都、4336、1、2007

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許の出願
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

成果の刊行に関する一覧表【平成19～21年度】

雑誌：外国語

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
<u>Kobayashi K,</u> <u>Yamaguchi K, et al.</u>	Effects of socioeconomic factors and cancer survivors' worries on their quality of life (QOL) in Japan.	Psycho-Oncology	17	606-611	2008
<u>Yamaguchi K, et al.</u>	Cancer Patients' Distresses and Inquiries - proposal of Four-level Classification Based on Consultation Service and Questionnaire Survey.	Cancer Sci	98	612-616	2007

雑誌：日本語

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
<u>山口建</u>	高度先進医療・患者視点の重視を両輪に「地域に根差した病院」を実現	がん治療最前線	67	3-7	2010
<u>山口建</u>	多職種チームの医療の実践	Oncology Network	2	3	2010
<u>山口建</u>	がん医療現場での Quality improvement を考える －患者参加型医療への対応－	安全医学	5	5-11	2009
<u>山口建</u>	医学は科学、医療は物語 －理想のがん医療を目指して－	臨床血液	49	215-223	2008
<u>山口建、堀内智子</u>	がん診療連携拠点病院の現状と課題	保健医療科学	57	318-326	2008
<u>小林国彦</u>	QOL評価の質問表 (EORTC QLQ-C30 と QLQ-C15 PAL)	緩和ケア	18	61-62	2008
<u>小林国彦</u>	緩和ケア用QOL調査表 －ケアノート (Care Notebook)	緩和ケア	18	69-70	2008
<u>斉藤恵理香、 小林国彦</u>	肺癌の緩和医療をめぐって	呼吸	27	958-964	2008
<u>山口建</u>	家庭医によるがん対策 －疾病管理と社会学の立場から－	治療	90	6-13	2008
<u>山口建</u>	がん診療連携拠点病院とは？	治療	90	123-130	2008

成果の刊行に関する一覧表【平成 19～21 年度】

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻 号	ページ	出版年
影山武司、山口建、堀内智子、他	地域におけるがん検診の実態調査	治療	90	75-79	2008
山崎むつみ、山口建、他	家庭医のためのがん情報収集法 -インターネットを中心に-	治療	90	137-143	2008
石川睦弓、北村有子、山口建、堀内智子、他	患者・家族のためのがん情報収集法	治療	90	145-150	2008
堀内智子、山口建、他、	暮らしに役立つ医療福祉サービス	治療	90	151-156	2008
福地智巴、山口建、他、	医師と患者・家族のコミュニケーション術	治療	90	157-162	2008
山下浩介	がん患者の在宅医療の現状と課題	治療	90	163-168	2008

書籍：日本語

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
山口建、他 (「がんの社会学」に関する合同研究班)		静岡がんセンター	がんよろず相談 Q&A 第6集 乳がん編③		静岡県	2010	
山口建	がんの社会学と患者支援	静岡がんセンター	がん看護 BOOKS がん看護研修マニュアル	南江堂	東京都	2010	12-18
山口建	がん対策の総合的戦略-予防・検診・受診・情報-	静岡がんセンター	がん看護 BOOKS がん看護研修マニュアル	南江堂	東京都	2010	41-48
石川睦弓、北村有子	患者・家族支援	静岡がんセンター	がん看護 BOOKS がん看護研修マニュアル	南江堂	東京都	2010	19-22
山口建	急増する患者。がんの 2015 年問題にどう立ち向かうか		がんを生き抜くための指南書	露書房	東京都	2010	73-86
山口建	「がんの社会学」を目指して		医の倫理・シリーズ講演会 よい医師になる	日本医学出版	東京都	2009	93-111
山下浩介			がん患者・家族のサポート		北海道	2009	

成果の刊行に関する一覧表【平成19～21年度】

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
山口建、他 （「がんの社会学」に関する合同研究班）		静岡がんセンター	がんよろず相談 Q&A 第5集 乳がん編②		静岡県	2009	
山口建	がんよろず相談（相談支援センター）の取り組みと役割	樋野興夫、木南英紀	がん医療入門	朝倉書店	東京都	2009	218-225
山口建	患者視点のがん治療を可能にするために	和田努(監)	日本の医療を変える－「医療崩壊時代」への提言－	同友館	東京都	2008	225-236
山口建、他 （「がんの社会学」に関する合同研究班）		静岡がんセンター	がんよろず相談 Q&A 第4集 乳がん編①		静岡県	2008	
山口建、他 （「がんの社会学」に関する合同研究班）		静岡がんセンター	学びの広場シリーズ⑥ 緩和ケアとは？ （小冊子）		静岡県	2008	
山口建、他 （「がんの社会学」に関する合同研究班）		静岡がんセンター	学びの広場シリーズ⑦ がんと上手につきあう方法 （小冊子）		静岡県	2008	
山口建、他 （「がんの社会学」に関する合同研究班）		静岡がんセンター	学びの広場シリーズ⑧ 患者・家族のコミュニケーション （小冊子）		静岡県	2008	
山口建、他 （「がんの社会学」に関する合同研究班）		静岡がんセンター	学びの広場シリーズ⑨ 痛みをやわらげる方法 （小冊子）		静岡県	2008	
山口建、他	がんの社会学－DPC時代の次に何がくるのか？	グローバルヘルス研究所	がん医療の質に挑む DPC時代のチャレンジ	日本医学出版	東京都	2008	57-72
山口建、他	“がんの時代”における家庭医の役割	片山壽(監)	地域で支える患者本位の在宅緩和ケア	篠原出版新社	東京都	2008	40-54
山下浩介			がんに負けない！ （小冊子）		北海道	2008	

成果の刊行に関する一覧表【平成 19～21 年度】

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
山口建	振り返らずに一歩 ずつ ーがんの社会学を 実践して			日本医事 新報	東京都	2007	4336
山口建、他			がん患者さんと 家族のための抗 がん剤・放射線 治療と食事のく ふう	女子栄養 大学出版 部	東京都	2007	
山下浩介			がん患者・ 家族のケア (小冊子)	(財)日本 対がん協 会研究成 果等普及 啓発事業 研究成果 発表会	北海道	2007	

